

# 令和6年度 第1回 八木中学校区 学校運営協議会

《開催日時》

令和6年6月13日（木）10:00～11:30

《実施会場》

流山市立八木南小学校 図書室

《参加委員》

委員長 久保田薫 副委員長 澁谷幸子

松見和樹 青柳未善 小野瑞穂 坂本知子 宇佐見登 安中篤史 藤沢純子 米倉孝

山田久仁子 金山滋 井川美佐子 小野寺克文 根本希代子 長田香

辻本晃 山口謙 山本亜由美

## 【会場校あいさつ】（山本校長）

委員の皆様は八木中学校区の応援団・サポーターであると思っておりますので、ご意見、質問等を率直にお受けして、八木中学校区の子どもたちを見て行くことを皆さんと考えていく時間としていきたいと考えております。

## 【委員自己紹介】

久保田会長

今年度1年間よろしくお願いします。

始めに各校の学校経営方針をお伝えいたします。

## 【学校経営方針】

〈八木中 辻本校長〉

「きみたちはどう生きるか」ということを発信している。将来に向かって今何をするのかを考える。一人ひとりの意識を高め自分がどうしたいか、何をすべきかを感じない事には成長しないので意識を変えていくところを中学生の間に少しでも身に着けてほしい。八木中の課題は、自分で何かを発信するところに弱さを感じている。自分の考えを整理して発信していかないとグローバルな社会に対抗していけないと思っている。

本年度から授業時間を50分から45分とし、自分の意見をしっかり持ってそれを発信する場を設定する。教員がしなさいというのではなく、先輩を見て自分たちが進んでいく道をしっかり意識していくことで、自分の考えを持たせて表現できる子どもたちを育てていきたい。物事に対して考え、それを伝えていく力をつけていかせたい。

〈八木南小 山本校長〉

子どもたちがたくさんの人たちと関わる将来を考え、学校教育目標を変えました。自分自身の良さに気づいて自信をもって自分自身や仲間、社会に貢献していく人になってほしい。

今年度から、「読み語り」を始めました。子どもたちがお話を想像しながら聞くということは、読書活動や文字に触れることにつながっていき、学力や情操面で大事なことでないかと思ひ、始めることができた。また、150周年記念に向けて子どもたちの声や考えを取り入れてやっていこうとしている。

〈長崎小 山口校長〉

根底にある考えは変わらないが学校教育目標を変えた。学校教育目標は大きく掲げることが多い。1年間教育活動を計画して実行してみてどうだったかということが教育目標に向かって進んでいる仕組みですが、非常に大きすぎて繋げにくい。子どもたちがそうなったのかと問われると答えにくいので、大きくやっていることを示していった方がいいと考えた。「主体的に生きる子」としたのは、子どもたちにいろいろな活動で取り組ませている考え方の根底には、自分たちで考えて工夫できる子どもになってほしいという思いがある。それを学校教育目標にした方が、職員会議で行事の検討をする際に、何をこれで狙うのかが一つに行きつく。そして、具体目標という形で付け加えたのは、学校評価などで保護者の方や地域の方からご意見を頂く場面を考えると、学校教育目標をさらに細分化し、具体的な言葉にした。特徴として、学校経営の重点のなかの協働・協力による教育とあるが、3年生以上は学年担当・教科担当制にしている。どの学年も3学級で構成されているので、担外の先生を含めて学年の先生プラス1の先生でその学年の教科を担当していくというチームで1つの学年に関わっていく、それによって助け合い、教員の経験差を補っていくことができるという考えでそのようにしている。

「個別最適な学び、協働的な学び」とある。どういう形が一人ひとりにとって最適の勉強の仕方なのかというところで、自由進度学習に取り組み、子どもたちが主体的に勉強そのものに取り組もうとする力を育てたい。また、子どもたちの関心を持つところが違うところで、関心を持ったところに時間をかけていいというところに自由度を持たせる。まだ具体的な形はできていないが、この2つを取り組んでいきたい。試行錯誤していきながら、子どもに本当の力をつけていきたいと考えている。

久保田会長

委員の皆さんからの意見をたくさん聞きたいということで、今日はぜひ全員の方にご意見を頂きたいと思ひます。

【委員よりご意見等】

〈松見委員〉

わたしが心に響いた言葉

八木中「きみたちはどう生きるか」・八木南小「笑顔、居場所のある学校」長崎小「子どもに本当の力をつけていきたい」

今の教育の流れに沿った形の教育目標であり、新しい動きにあっていると感じた。

自己理解をして、自己分析をして自己調整しながら実践して振り返る、次の目当てを立てる。こういう繰り返しがとても大事であるといわれている。そういったことをグランドデザインで進めていることは参考になりました。

〈青柳委員〉

八木中で自主性・積極性を実践、八木南小で人の輪や笑顔を育て、長崎小ではここに応じた教育をしている。三校それぞれが素晴らしい。町のいろいろな人が集まってコミュニティがある。学校づくりは人の輪づくり。人が協力してお互いを理解しながら作っていくもの。

〈小野委員〉

八木南小（学童）と八木中（コーディネーター）で活動しているので、子どもたちが声をかけて手を振ってくれる。学校の先生はあいさつをしてくれないので、率先して行ってほしい。長崎小の教科担任制は良いと思う。担任の先生と合わない子供も、いろいろな先生に接触できれば合う先生を見つけることができる。

〈坂本委員〉

八木中「君たちはどう生きていくのか」という問いは、まさに中学校でどういう自分を描けるかということ。夢を持つ、目標を持つことの大切さ、一日一日努力を重ね、そして、最後に高校受験がある。八木南小 笑顔・つながりという言葉が好き。コロナで分断されコミュニケーション不足になったが、すべての学力向上のためには国語が大事。読み聞かせ読み語りには情操面でも大事。長崎小 自分で目当てを立て、修正しながら取り組める子という目標が素晴らしい。教科担任制は高学年だけでなく他学年でも可能。子どもは隣の担任からも愛情をもらえる。

〈宇佐見委員〉

「大樹」に載っていた書籍「学校はまちがえるところ」その他の本を読んだ。絵本で人生が変わるかもしれない。

〈安中委員〉

八木中に長男が在籍しており、学校のことを楽しそうに話してくれる。まさに通わせがいのある学校という目標を達成している。八木南小三年生の下の子は単学級になってしまい、二人の先生（若手とベテラン）が見ている。そのへんのところも今後聞きたい。長崎小の教科担任制は良いと思う

〈前澤委員〉

幼児教育でも参考になることがある。どう生きるか、主体的に生きること、自分の良さに気づくことなど。幼稚園でも、生活の基盤を整えること、自分の意思が言える子になる子になること、自分で考えてものづくりをする等を大事にしている。行事に関しても、どうしたら子供たちがもっと楽しめるかを考えているので参考になる。最近、配慮児童の増加が顕著で、グレーゾーンの子供が増えた。クラスの中でも集中できない子がおり、成長・発達の差が大きく、保育の難しさが増している。療養施設や市教委と協力し、どうしたら一緒に遊んでいけるか考えていく。主体性をもって楽しく過ごしてもらいたい。

#### 〈米倉委員〉

新人先生のあいさつがあまりできていない。新人先生の登校時間が遅いのでは。教員を多く輩出している伝統校はしっかりとあいさつも教えていると感じる。指導者の校長先生方は立派なことをやってくれているが、この新人たちが上に上がっていったときにどうになってしまうのか心配。

#### 〈山田委員〉

子どもたちの情緒を育むという点でこの地区は恵まれているし、伝統として引き継がれていると思う。読み語り活動に先生や地域の方々、学区を超えても来たい方など誰でも来ていただくことで学校にいろいろな大人が入れ替わり入り、いろいろな大人がいることを体験できる。クラスの子と担任が15分間1つのお話を聞くということは大きな経験である。朝、話を聞くことで次の授業が楽しくなることを目指している。絵本はいろいろな可能性を持っているので皆さん参加してください。

#### 〈金山委員〉

小中学校では学力体力などバラバラな子が集まっているため大変苦労しているのではないかと思う。高校生になるにあたって、自分自身で考える時間がすごく重要になってくる。読み語りについては、その中でコミュニケーションが取れていいのではないかと思う。あいさつのお話が出ているが、あいさつができるということは、人に寄り添えることかと思いうので、今のうちに進めて行くべきだと思う。教科を学年で担当することは非常にいい試みで、成果が出るかどうかは別として個人のスピード感が違うということが修正される。いろいろな先生に教えてもらうことで学校に来ることが楽しいと思ってくれることはいいことだと思う。

#### 〈井川委員〉

将来これが役に立つということが小中学生に伝えようとしても理解できないのではないか。自分の考えを発信することは大切だと言いますが、SNSの時代で、知りたかった情報も知れるかもしれないが、必要のない情報もたくさん入ってくる。このような社会の中で、どのように自分を発信していくのかということが楽しみであるが、不安のほうが大きいので学校でリテナシーを教えてほしい。

#### 〈小野寺委員〉

不登校の子や学校に行きづらい子、居場所のない子たちの学びについて心配しているところ。子どもたちを救えるのは義務教育、学校だということで学校には行ってほしい。高校生になってしまうと様々なことが自己判断にゆだねられてしまうので心配である。

#### 〈根本委員〉

自分の夢を持ち、そのために何をするかというのを考えさせる機会を中学校でたくさん持たせてくれるのはありがたい。もっと自分で考えていくべきだということを教えてくれるこ

とはありがたいと思う。

居場所があるということが自己肯定感を上げることにつながっていくと思うので、こういった考えのもと学校に通える学校というのはいいなと思う。子供たちの成長にばらつきがある。その子に応じてやっていくということも必要だなと感じた。

若い先生についても地域で育てていけるようにしたい。あいさつをしていこうという雰囲気を作っていきたい。

〈長田委員〉

小学生よりも中学生の方があいさつをするという印象。小学校からの積み重ねが花開いて先輩から後輩へ受け継がれていると感じている。今は、積極的にあいさつ出来ない子も八木中の先輩方を見てあいさつをする伝統をつないでいってきていると思う。

【久保田委員長】

全員からいただいたお話の中から今年一年間どういうことを話し合っ、各学校の手助け、地域として子どもたちをどう育てていくか、ということを持ち帰っていただいて、また次に持ってきていただければと思います。

校長先生方には、この方針で一年間子どもたちを育てていただければと思います。